

○書き下ろし歌謡曲
(岩波新書刊) 阿久悠著
椎窓 猛



去る8月2日、死去の
作詞家阿久悠氏の追悼記
事はどこの新聞もかなり
のスペースをさいて掲載
していた。昭和戦後の時

代を歌謡をとおして熱っぽく歌いあ
げた作詞家といえよう。「宇宙戦艦
ヤマト」「北の宿から」「舟唄」と
幅広い歌謡を生みだしている。青森
へ旅をしたとき、竜飛岬に立つ歌碑
から流れでた石川さゆりさんの「津
軽海峡冬景色」のメロディは印象深
いが、これは阿久悠の作。ここにと
りだした彼の歌謡曲論は1997年
の発行。

「まったく新しいカルチャーとの
遭遇というかたちで、戦後、歌謡曲
を受けとめたのです。僕にとっては
歌謡曲は情報でした。世の中で何が
はやっていて、人々はどのような感
覚で生活していて、どういう人がす
てきに思われているか——それは全
部歌謡曲で知ったんです。——」と
少年の日を語る彼。彼は淡路島に昭
和12年の生まれ。

黄櫨の会・自分史図書館だより



平成19年8月10日 筑後市野町428-8
〒833-0032・TEL 0942-53-8122

これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河めぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」はその証言館です。

○近代大牟田の明星派歌人
白仁秋津の世界
白仁秋津を顕彰する会発行



この会を代表される大
城美知信氏は刊行にあ
たって「最近では白仁秋
津の名を知る人も少
なくなりました。秋津
は本名勝衛、明治の
後期から大正、昭和
にかけて活躍した郷

土の歌人。「明星」派
の与謝野鉄幹、妻晶
子に師事、若き日の北
原白秋とも親交があ
り、有名な「五足の靴
」文芸紀行を背後から
支えたが、大正12年
から昭和12年まで15
年間も、旧銀水村の村
長もつとめ、地域振
興にも貢献……」と
プロフィールが語ら
れている。

句集 八女津媛

西江 和子

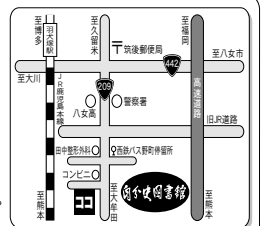
願ひごと人それぞれや星祭り
陽に焦げしひまわりの種うつ向けり
歯が生えし便り読み合ふ秋の昼
うづ潮を覗く冬帽を真深くし
涼風の影と思ひし城下町
全身で笑むみどり児や秋麗
秋空や組体操の肩に雲



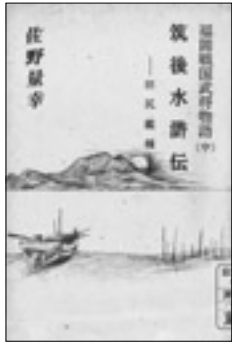
- 恋人のたまへる虫おえる児の
喜ぶよりも嬉しかりけり
- 福岡の名島の浜の真砂子より
君の瞳は美しきかな
- 秋の日は瞳を閉ぢぬ悲しげに
風ぞ過ぎ行く巾ひの如
- 古き代の木に巣くひたる人のごと
枝に上りて柑子をば採る
- 阿蘇を出て肥の国を吹く青あらし
天草島にしら浪をあぐ

自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話で
ご確認下さい。
貸し出しはしていません。

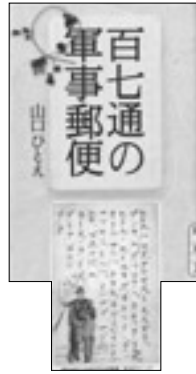


〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



○福岡戦国武将物語
筑後水滸伝一田尻鑑種
佐野 量幸

著者佐野さんは、まえがきに、「一方、乗じること
に失敗、古城と共に忘れさら
れ、歴史の流れの中に埋
没した武将も多い。しかし
それでも古戦場や古城の跡
などを通して、甦ってくる
彼らの情熱は、今なお私た
ちに強く訴えかける」と
述べられている。その武将
の一人田尻鑑種が語られて
いる。「筑後を制する者が
九州を制する」大友、島津
竜造寺が一目おいていたの
が田尻鑑種。鷹尾城をかま
え水軍をひきいた勇将の物
語。



○百七通の軍事郵便
山口ひとえ（文芸社刊）

「私の父山際正司は昭和
16年、私は4歳、妹2歳、
弟は生後6ヵ月、母は父と
同じ30歳、このとき宮城
県の部隊へ召集出征、フィ
リピン、マライ、ジャワ、
ビルマと転戦、インパール
作戦に参加、九死に一生を
得て復員、平成7年83歳
で死去したが、山口ひとえ
さんにとっては戦地からの
父の便り107通が、戦争
という異常な時代に強い絆
で結ばれた家族への思い。
これを子孫に伝えたいとの
思いでまとめられた一冊。

・家族残して征きたる亡き
父の軍事郵便読む百七通を



○人生に卒業はない
吉田 誠子

「四月初め、盛岡から、バ
スで繋温泉に近づくと御所
湖の北方に聳える南部富士
の残雪に赫々と夕映えが美
しい。感動と共に啄木の詠
った岩手山の詩を思い浮か
べる」と書かれた一節があ
るが、吉田さんは岩手の人。
昭和2年の生まれ。看護学
校卒業以来、医療、保健、
福祉の分野で働き、国立病
院婦長、助産婦など歴任。
その間の忘れ難い思い出の
数々が綴られて感銘深い。
なかでも亡き主人を追憶
されているくだりには感動
させられる。56歳で逝か
れたご主人は歌人でもあっ
た。

・赤光の彼方に歩をば早め
つつ去りゆく君に別れを告
げぬ



○紫水 第28号 発行～紫水会
編集人～秋山喜文

発刊のたびごとにご恵贈
の「紫水」は内容豊富。
森山靖章さんは旧制高校
賛歌と題し、五高の逍遙歌
が紹介されている。

椿花咲く南国の二更は過
ぐる星月夜 檣櫓の森に陽
は落ちて 歌朗らかに 青
春の感激深き若き日の誇り
を永遠に忘れじな

肝臓がん、直腸がん手術
体験闘病記の西謙次郎さん
の実直な記録、生きること
の大切さ重さがありのまま
に記述されている。

和顔愛語を消してしまう
インターネット時代評の富
沢義敬さんの論にも傾聴さ
れること多大である。まこ
とに得難い貴重なエッセー
誌である。

編集掌記

▼先月8月号は紹介す
る書物が少なかったが、
あとで7冊ほど館長の
机上に届けられていた。
一冊ごとに手にするた
びに人生邂逅、感謝の

念に包まれる。インターネッ
ト現
代社会から見て活字の書物を軽視
される風潮があるが、あれこれ思
い量るに、書物、本ほど、頼りに
なるものはない。電気がこなければ、
インターネットは動かさず……。そ
こへいけば、本はどこへでも持ち
はこび出来、明るい場所さえあ
れば何処でも読むことができ
る。それを忘れかけている人も多
い。

▼先日、大刀洗平和記念館を訪ねた。
このごろ安倍首相は、戦後体制か
らの脱却などと言っているが、こ
こを見学すれば、如何に当時の若
人が尊い生命を散華しなければな
らなかつたのか——、改めて深く
考えさせられる。毎月、戦争あの
時代を思い返す記録は絶えること
なく恵贈されている。

（自分史図書館長 椎窓）